令和5年度

穴吹小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

〇学習規律の確立を図り，丁寧な学習習慣を身に付けさせる指導の工夫。
〇基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるための授業実践。
〇主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業実践
（思考力，判断力，表現力などを育むための授業実践）

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
藤川　愛	校長：三橋　孝史　教頭：村上　功洋　研修主任：杉浦　舞 村岡　陽平　大塚　優　大塚真理子　岩田　麻希 藤田　俊明　北村　恵子　松田　徳子　原　友里江 西岡田さつき　林　鮎美

校長
三橋　孝史

【各校における実行プランの取組状況の把握について】

管理職による授業参観や研究授業，教員からの報告や調査など様々な機会を捉え，取組状況の把握を行う。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

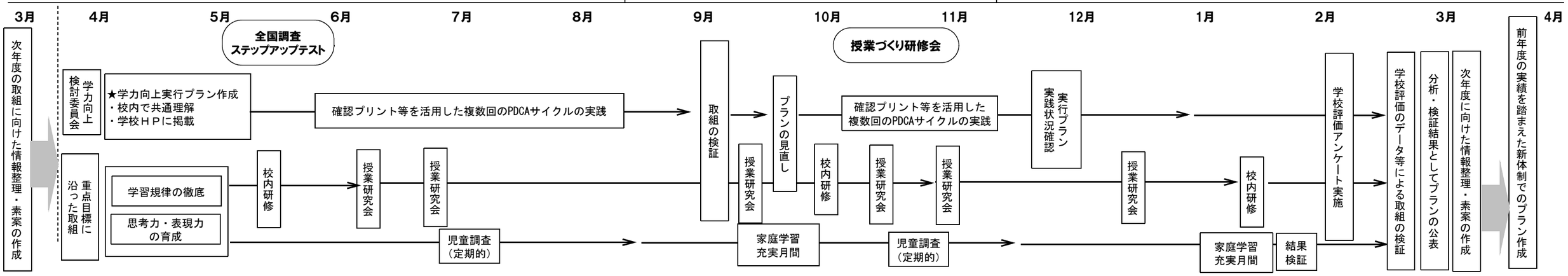
（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（〇よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
〇授業には真面目に取り組み，指示されたことは，勤勉に取り組もうとする。 〇ノートに書くスピードが上がり，丁寧にまとめられる児童が増えている。 ●語彙の知識や自分の考えを伝える手法が十分に身についていない。 ●算数科では特に定着具合の個人差が大きい。 ●指示を正確に聞き取れていない児童がいる。	・繰り返し学習を積み重ね，基礎的・基本的な知識技能を確実に習得し，他の場面で活用できる。 ・学年に応じた話す・聞く力を身に付け，語彙を増やし，自分の考えや意見を伝えることができる。	・めあてに沿ったふり返りを書かせるとともに，定期的にミニテストで定着度を図る。 ・ドリル時間の充実を一層図り，一人一台のタブレットも活用しながら漢字・計算・読解問題を計画的・継続的に実施していく。 ・マイ国語辞典を日常的に活用させる。 ・穴小5つの聞く力・話す力（あいうえお）や発表の仕方を毎時間意識させ定着を図る。	・全教科，基礎基本のさらなる徹底をし，積み残しのないようにする。 ・国語辞典を積極的に使わせる。 ・基礎となることは単元を通して要所で繰り返し復習する。	〇国語辞典は活用できている。進んで調べる児童が増えた。 ●ドリル時間は，考える算数やタイピング等に使うことが多かった。タブレットの活用については，修理中のためタブレットがない児童もおり，十分活用できない学年があった。 ●めあてに沿った振り返りはできていたが，ミニテストの実施は学年によりばらつきがある。 ●穴小5つの聞く力・話す力（あいうえお）の活用については，学年によりばらつきがある。	・めあてを掲げ，それに沿った振り返りを継続する。 ・ミニテストをタブレットでする方法はないか考える。 ・ドリル時間にタイピングは良かったので，定着させるのため継続する。 ・穴小5つの聞く力・話す力（あいうえお）を各学年にあったものへと見直す。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（〇よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
〇先を考えて行動できる児童が多い。 〇めあてに沿った振り返りを書ける児童が増えてきている。 ●既習事項を活用して課題を解決していこうとすることに課題がある。 ●伝えたいことを相手や目的に応じて表現することに課題がある。 ●文章の組み立てや比喩等の文章表現を苦手とする児童がいる。	・課題等に対して，話し合い活動等を通し，既習事項を活用して解決方法を考えることができる。 ・目的に応じて読んだり，根拠や理由を明らかにしながら，自分の考えを書いたり伝えたりできる。	・課題解決型の学習の回数を増やし，既習事項との繋がりが意識できるよう声かけ等を工夫する。 ・文章のキーワードに線を引いて目的に応じて内容を読み取らせたり，キーワードを基に文章を書かせたりする等の手立てを行い，読解力・表現力を高める。 ・自分の考えを伝えるために効果的な手法（図，式，言葉，表など）を選択し表現する活動を積極的に授業に取り入れる。 ・よい発表モデルを紹介し，表現力を高められるようにする。	・段落の役割を確認し，段落（まとまり）を意識して文章を書く経験を増やす。 ・文章の重要な部分に印を付け，相互関係を整理してまとめる活動を取り入れる。	〇タブレットを活用して，自分の考えを表現する活動を取り入れることができた。 〇上手な発表の子どもを褒めてモデルにできた。 ●算数・理科を中心に常に課題解決型の学習を行っているが，やらされ感はまだ残り，自分から考えようという習慣はまだ身についていない。 ●キーワードを探すことはできるが，文章や語句が変わると答えられないことがある。	・考える時間が十分に取れるように，課題解決学習をする単元をしぼる。 ・読んで理解したことを伝える機会を多く取り入れる。 ・デジタル・アナログ両方の手立てを考える。 ・ペア・グループ・全体など，色々な方法で表現する回数を増やす。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（〇よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
〇自分で課題を決め，自主学習に取り組める児童が増えている。 〇学習意欲が高い児童が多い。。 ●家庭での学習習慣が身に付いている児童が多いが，身に付いていない児童もいる。 ●不得意な学習内容に対して粘り強く取り組むことに課題がある。	・自分の夢や目標に向かって粘り強く取り組むことができる。 ・めあてをもって学習に取り組み，わかる喜びを味わいながら進んで学習できる。	・「家庭学習の友」を使って家庭学習の仕方を繰り返し指導し，手本となる自主学習ノートを紹介する。 ・自主学習で調べ学習を定期的に行い，自分の興味関心に応じた学習が進められるようにする。 ・学年通信等を活用して学習内容を保護者が目にする機会を増やし，家庭での協力をお願いする。 ・タブレットの有効的な活用について共通理解を図り，単元を厳選して家庭学習でも活用する。	・自主学習ノートの掲示を行い，児童の自主学習の質とモチベーションを高めることを継続する。 ・家庭でのタブレットの効果的な使い方を研究し，宿題の出し方を工夫する。	〇特に家庭との連携が必要な低学年は，学年通信等を活用して，家庭との連携を図ることができた。 〇自主学習の紹介は定期的にできた。 ●「家庭学習の友」の活用については，形骸化しているようなところがある。 ●タブレットの家庭学習での活用については，家庭によってはインターネット環境が整っていないところもあり，家庭学習の課題として出すのは難しかった。	・自主学習の例や学習時間等を記載した本校独自の家庭学習の手引きを作成する。 ・こども新聞の感想を自主学習にするなど，新聞等を活用した個の興味関心に応じた自主学習を推進する。 ・「自主学習」の定義や課題の出し方（タブレットの使い方）を職員で共通理解する。

令和5年度　学力向上ロードマップ